

牛久と亀戸

報告

江戸時代の牛久は大平がアカマツ林で幕府御

森のきき取り・小野川水運の検証その2

話のきっかけは、里山の会のプロジェクトの一つである、「森の聞き取り」で、地元のお年寄りのお話を聞き書きする中、「この屋敷は明治のはじめに火災で焼失してね、新しく建て替えたんだ。その瓦屋根も古くなつてね、最近葺き替えたんだよ。その瓦の裏に「亀戸」と文字が掘ってあったんだ。何処でつくった瓦なんだろうね？」という一言で、小野川水運と江戸の接点を解き明かそうと、牛久から江戸までの全行程を風漕しに調査を開始しました。小野川水運は当「さとやま」一月号に掲載しました、小野川水運の検証その一に続ける形で今回その二を報告します。

用の「御林」、即ち「天領」が広がっていました。これは、江戸の人口急増に対処するための燃料の供給を目的とした政策林でしたが、結束村は私有林が広がり、木材や薪炭で生計を立てる「山師」としての事業を行っていました。古文書には結束の二軒が荷主として登録され、傳仁右衛門河岸という専用の河岸を持ち、江戸との交易が行われていました。

牛久地域の小野川流域の農家では造茶船といわれる小舟を持ち（猪子村・奥原村まで二十二艘が鑑札をうけていた）荷主から依頼された薪炭や年貢米などを伊佐津河岸（現稲敷市）まで運び高瀬舟に載せ替えました。その高瀬舟とは、一般に言う高瀬舟とは別格の大型船で、長さ八十九尺（27m）・幅十七尺（5m）という五百石積クラスの大型船もあつたと言ふことです。これは茨城が江戸に対する生活物資の供給基地であつたことが伺えます。この高瀬舟で小野川から霞ヶ浦を経由して利根川に入り、利根川を関宿まで遡って江戸川に入ります。今度は江戸湾の近くまで下り、船堀川を西に向かい、中川を横切つて小名木川の入口にある、中川船番所（川船の関所としては最大級）で積荷の検問を受けてやっと江戸に入ります。小名木川をまっすぐ進むと大川（現隅田川）に到着。ここから日本橋や浜町などに荷を下ろしました。

そして帰路、空身になった船は今度は牛久地域の村人が使う生活物資を調達しました。小名木川流域（現江東区の猿江・住吉・砂町と大島の間を流れる）の当時は本所と亀戸村で、古くから工業の盛んな地

であつたと言ふことです。江戸の町民が使う大半の生活用品と蔬菜（亀戸大根が有名）の栽培が行われていました。この亀戸村に瓦工場があつたのです。

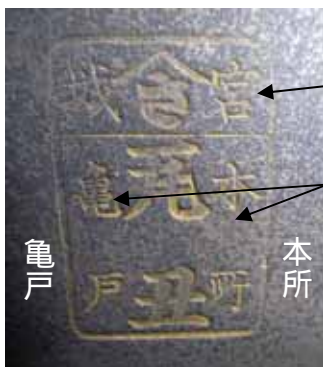
話のきっかけとなつた「亀戸の瓦」は写真の通りですが、小野川水運がなければ、瓦葺きは叶わず、茅葺きであつた事でしょう。今回の調査で、亀戸の瓦の記述があつたのは東京府志料（資料ではない）並びに江東区史（中巻）によつて検証されました。

今回の調査で協力いただきましたのは、江東区中川船番所資料館・江東区教育委員会。江戸東京博物館、資料は国立国会図書館で閲覧しました。

東京府志料

明治五年（1872）四月二十四日、陸軍省布告により、全国の府県に対して地勢調査が命じられたことから、作成を開始している。

（布告の内容）今般当省において全国地理図誌編纂輯につき御用これ有り候間。各管下元一藩は一県限り。兼ねて取り調べこれ有り候。国都村郷明細地図、並びに域市村落山河海岸の形状その他風土記など、並びに別紙の廉々に関係する分、詳悉記載して早々差し出すべく候。此旨相違候事。



屋号
所在地

亀戸

本所

雑木林応援隊報告

飯田

一月二十八日 コジユケイの森

先月に引き続き、コジユケイの森での高木の伐採、今日は参加者も多く、奥に残っている二本を切り出す。膝くらいまで繁っているササ・クサの刈り取り、刈払い機三台が高木の周りから刈り取り始める、刈り取ったササ・クサは逐次集めていく。刈り取りが一段落したときに、奥の一本は残すと森の人が言っていたと聞く。高い枝にワイヤーをかける人、そのワイヤーをチルホールに繋ぎ支点に架け緊張する。チェーンソーで受け口をつくり追い口を入れる、ワイヤーに緊張を与えていく。一本は予定通りの方向へ、もう一本も近くに倒すことができた、この一連の作業がずい分慣れてきた。

午後からも

続けて刈払いを行い、ずいぶん広い範囲を刈り取ることができ、けもの道の奥が明るくなった。後日、一本残した木はエノキであり、オオムラサキ・ゴマダラチヨウの食草であるので残しておくとの事。ムジナの里に



もエノキがあり、整備を始めてから三年が経過しているが、いまだ出会ったことがない、でもいつか会えるかもしれないので、ムジナの里にもエノキも残すことにしよう。

二月十日 炭焼き

二度焼きした竹炭の取り出し、窯口近くに立てかけていた竹は下が生焼けになっている、奥のほうの竹は炭になっている、熱の回りかたがわかる。木の詰め込みも終わり昼食前に火を入れることができた。しかし、煙突に取り付け空気を吸引するファンがなく、火の回りが悪い。煙突から煙が立ち昇らない。十二日のサイエンス・フェスタに竹炭を出品するため八袋包装してお願いすることとした。

二月十一日 炭焼き・ムジナの里

炭焼きの続き。煙がようやく立ち昇り始める。昨年より中断していた竹垣づくり、人数は少なかったが、三年にもなるので手慣れてきた。午前中に二・四mの間隔を三スパンづくり、午後からは門柱になる支柱とつなげ区切りとした。

二月十二日 炭焼き・倉庫組み立て

炭焼きは続く。勢いよく煙が立ち昇っている。借りてきた二トントラックで倉庫を受け取りに出発。昼から炭小屋裏に組み立て始める、一時過ぎに完了。一日目に窯に火が回らなかったので、上がる煙から判断して今日に窯を閉めることはできない。レンガひとつ分の口を空けておき、煙突は短くして今日が終了とした。サイエンス・フェスタより帰ってきた方から、以前の木炭とあわせて竹炭も完売することができたと聞く。暖かい二月で活動しやすいが、陽だまりのぬくもり、焚き火のほてりが感じられない冬の晴れ間である。

雑木林畑隊報告

小野寺

大豆のこれから

寒い季節は、湯豆腐か鍋で、暑い時期には冷奴にシヨウガおろし、とこれが豆腐の定番ですが先々はこれまでのように口に出来なくなるかもしれません。数日前のテレビの見出しに「豆腐の原料が不足」とありました。理由はバイオ燃料の普及です。日本の大豆は使用量の約九十六%が輸入品で、その大半がアメリカ、カナダ、それに最近では南米産とそれどもれも太平洋を渡ってきています。以前は中国からも入ってきていたようですが、水資源不足が原因で今では輸入国に様変わりした様です。

このように多くの国で生産されている筈の大豆が品薄になるわけは、一昨年に始まる石油価格の高騰対策として、消費国が石油以外の燃料（バイオ）である、トウモロコシの増産に対策を向けたことで、大豆農家が減ったことにあります。

ハンバーグ

食品の普及が、地球的規模で熱帯林の縮小を促しているといわれたのは三十年位前でしょうか。同じその頃、街の店頭からトイレットペーパーが一斉に姿を消し、私たち



を狼狽させたことがありました。データを手造されて納豆が店からなくなったのは、つい先頃です。私たちにっては健康食品である豆腐や納豆、そして味噌、醤油これらの食品がいつまでも手の届く所にあることを願わずには居られません。

ちよやまがつきゅう報告 若林

「冬だからこそ楽しめる里山」

週間予報では、当日の天気がとても心配な予想になっていましたが、ぼかぼかの日差しがさす暖かい日に第三十六回さとやまがつきゅうが開催されました。朝から子供たちは元気いっぱい！ぼくたちに飛びついてきます。

今回もいつも通り遠山のフィールドからスタート。今の遠山は葉っぱの落ちた雑木林がとてきれいです。そんな雑木林の中で人工物をつける「カモフラージュ」や、目隠ししてロープ伝いに歩く「目隠しトレイル」など、楽しく自然を感じる事ができるプログラムをふんだんに行いました。

最後には、小倉リーダーのキノコ狩りと山菜取り。

ニワトコの木を探すと、そこにはキクラゲがたくさん生えています。ニワトコの木いっぱい付いている天然のキクラゲに子



供たちも大興奮。藪の中でもがんばって取りにいきました。さとやまがつきゅうの子供たちはワールドでもカッコいいです。途中で田んぼの小川を観察するとカワニナがたくさんいたり、足音に驚いたのかドジョウがよるよる出てきたり一日を通じて里山の自然を感じることができました。今回は四月二十二日(日)を予定していますので、みなさんの参加をぜひお待ちしております。

里山観察隊活動報告 高野

「里山植物観察会(平成十八年度最終回)」

今年度(平成十八年度)、里山観察隊プロジェクトの活動として四回の野外植物観察会を開催してきました。今回(二月十日土曜日)は最終回として、観察の森ネイチャーセンターにおいて「植物の分け方の基本を知る」というテーマで、植物の分類や植物と生育環境の関係等の基本を学びました。

今回は過去四回の植物観察会を通じて講師として指導・解説を下さった渡辺泰さんからスライドや資料を使って「植物の分類」、「作物・雑草・人里植物及び野草の関係」、「陸上植物の系統図・分類表」等についての説明を頂きました。

更に、個々の植物を良く理解し、名前を覚えるのに一番有効な方法としての「植物標本作り」について具体的に説明して頂くと共に、今日日本で権威あるものとして評価されている植物図鑑の数々について現物を見ながらその特徴、利用の仕方等について紹介して頂きました。

里山観察隊は次年度の活動として一般市民向けの「牛久の植物ガイド」と「うしく里山の会」会員向けの「植物観察会」を計画しています(下記参照)。

今年度の反省や今回の勉強会の成果を引き継いで、より充実した内容にしたいと思っております。うしく里山の会の皆様の活動への参加をお待ちしています。

【お知らせ】

平成十九年四月からの里山自然観察隊プロジェクトの活動のお知らせ

里山植物ガイド(市民一般向け、会員も可)

目的: テーマを決めて植物の案内をします。

時期: 四、六、九、十一月の四回

時間: 八時三〇分～十二時三〇分

集合: 集合場所は活動場所による

植物観察会(会員向け) 牛久市の小野川上流域

目的: 植物の名前、特性を覚えると共に、それらの観察結果を記録します。

詳しくはその都度会報でお知らせします。

この機会に植物の名前を知りたい方や、

牛久の植物に興味のある方を募集します。

時期: 五、七、八、十、十二月

時間: 八時三〇分～十五時 弁当持参

集合: 牛久市役所駐車場

また、プロジェクトメンバーも募集しています。

【三月の活動】

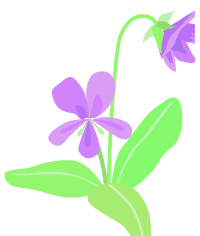
小野川上流域(観察地)の下見をします。

三月十日(第二土曜日)、八時三〇分～十五時

弁当持参のこと。小雨決行。

詳しくは 029-873-6562

(高野)



出前講座活動報告 石神

自然観察出前講座 ……「ぼれ話」

「オオカマキリの交尾」

十月初旬、秋晴れの野外観察日よりだ。今回は、公立保育園児年長組(五才、六才)十六名が対象で、保育士さんの要望で「秋の自然を見つけよう」がテーマだ。事前に下見をしたポイントにそってスタートした。「今日は鳥の目になって、いろいろな実をさがしてみよう」という目あてを与えると、その観察力には驚かされるばかりだ。

二十分近く過ぎたであろうか。K君が突然「カマキリ、ゲット」と大声で叫んだ。子どもたちがK君のそばに集まり大さわぎになった。「一匹だ、お尻がくつついてる」「交尾だよね」「保育園で飼いたい」「かわいそうだから放してやるぞ」「死んだら卵を産めないよ」など様々だ。K君は交尾中のオオカマキリをつかんだまま、「ぼくが見つけたんだから、家に持って帰る」と主張しつづけていた。

私にとっても交尾中の観察はめずらしく、K君ならずも「ぼくのものだ」と主張したい気持ちには共感できるものがあった。

いよいよ私の出番である。「K君の気持ちを、オオカマキリの立場に立たせてあげられるか」がポイントと考え、オオカマキリの生態をわかりやすく、ていねいに子どもたち全員に語りかけてみることにした。

- ・ 交尾は卵を産み、子どもが生まれるものになるので、一生で一番大げなこと
- ・ メスは、このあと安全な場所を探して卵を産む

こと

・ 生きていくためのエサは、小さな虫を探して食べていること

・ メスもオスも、寒くなって気温が下がると死んでしまうこと

・ 人間とちがって、ひとりぼっちでいっしょうけんめい生きていること

交尾中のオオカマキリを見ながら、しんげんに話を聞く子どもたち。K君の表情もおだやかになり、「おじさん、放してやるよ」と言ってくれた。特に「寒くなったら死んでしまう」ことに、どの子ども心も動いたようだった。

ほんの短時間の中で、「かわいそう」「死んでしまう」「産まれる」「生きている」という言葉が何回も飛び交った。この抽象的な言葉も、オオカマキリの観察を通すことによって、幼児であっても理解できることがわかる。

生死や思いやり心が育っていないと言われる子どもたちにとって、自然の果たす役割の大きさをつくづく感じさせられた。今回のように、予期せぬ、しかも価値ある観察体験が待っているのも、自然観察の楽しさの一つでもある。



牛久自然観察の森報告 渡邊

去る二月四日(日)午後一時から三時まで、地元学特別講座「仏像文化財の基礎知識―木材や漆、素材からみた仏像の話」を開催しました。講師はNPO古仏修復工房の飯泉太子宗さん。飯泉さんは、京都で六年間国宝の修復を手がけられ、昨年より地元・真壁(現桜川市)を拠点にボランティアで文化財の修復を行っています。

今回の講座では、仏像素材についての基礎知識に始まり、地元茨城県には、鎌倉時代の木彫の仏像が結構多いなど写真を交えながら、大変興味深い話を伺うことが出来ました。また、満員のレクチャー室での講座中、参加者の皆さんが最も熱い視線向けたのは、現在修復中の仏像と解体された顔面や台座などの「実物」でした。特に仏像の裏面は、創建当時の状態で、皆さん固唾を呑んで見つめていました。



「じゃがいもプロジェクト」案内 横山

植えつけ三月三日(土)午前中実施!

参加者(特に親子)募集! 詳細: 横山 874-1430 まで

巨木リサーチ活動報告 山田

巨木と嘘木 『巨木リサーチ事業』エコツアー

雨引山の中腹に、荘厳さのなかつ少し艶やかさを漂わせた名刹雨引観音がある。本堂のやや後に、空に刺さるような巨大な杉が何本か立ち並び、曇り空とは対照的に見事なまでの彩りの枝を茂らせている。

近くで見ると高さによる威圧感よりもむしろ、幹の太さの重量感とその存在感に圧倒される。巨木である。並び立つ奥の杉に近づいて愕然とした。おそらくは落雷にあったのであろう、幹の半分程が縦にえぐり取られて無い！ 黒く炭化した跡がきらりと光る木肌が大蛇のような跡を残し、その瞬間起きた壮絶な出来事を想像させる。

地面には根こそぎ倒れた跡であろうか大人が数人入れる大きな穴が空いている。見上げると、まるで雨樋のような姿の幹がそびえ立ち、杉の絶叫が聞こえそうな残酷な姿が眼に入る。離れて見る威風堂々とした姿とは裏腹に近くで見るとこの木は嘘木である。この姿に悲しい思いをする。それでも距離をおいて見てみれば、何事も無いように立つ立派な木なのだが。何事も、近寄りすぎず距離をおくことが悲しまずにすむ秘訣なのだろう。

今月の巨木

簡

『正源寺のトチノキ』

毎月「巨木・古木・希少木リサーチ」の対象になった地域の銘木をお伝えします。

樹高 17m

幹周 3.3m

樹齢 推定400年
所在地 牛久市牛久町115 正源寺内



二月の運営会議から

平成十九年二月十八日 九時～十一時

一・牛久市が四月より導入する「市民災害補償制度」について

四月一日から市内で活動するボランティア等の団体に対して市が一括して加入する「市民災害補償制度」に関して説明を行いました。五人以上の団体（グループ）が市内で活動中に事故や怪我をした際に補償される制度で、各団体では加入申請の必要はなく、災害時に市役所に申請するというものです。保険料は無料です。

二・会費の納入をお願いします。

来年度年会費の納入案内を一月末発送の会報に同封しました。皆様ご協力ありがとうございます。二月十八日現在、百十名中六十六名が納入済みです。

会費未納の方は、お早めの納入をお願いいたします。会費納入は郵便振り込みでお願いいたします。

三・森の作品展・作品募集のお知らせ！

森のNCで作品展を行います。展示したい写真・クラフト・絵画・炭などがある場合は、持込期間に森NC事務室までお持ちください。

持込期間：三月十日（土）～三月十六日（金）
開催期間：三月十七日（土）～四月一日（日）
（主に園内、牛久周辺で製作された作品が対象）
飾りつけ作業：三月十六日（金）一時～自由参加

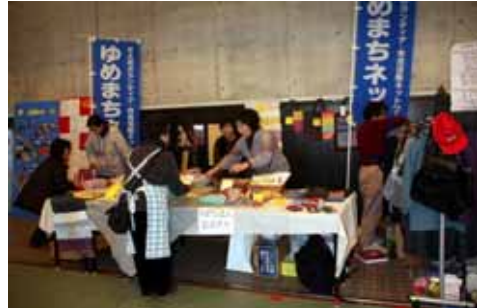
里山の風物



これは何の写真だか分かりますか。最近では殆ど見かけなくなった節分の日の焼嗅（やいかかし）という風習です。柵（ヒイラギ）の枝に鰯（イワシ）の焼いた頭をつけて玄關や門の前に掲げます。柵は棘で痛い、鰯は臭いと言ったことから鬼が嫌うものを家の戸口に掲げて悪魔払い（鬼の侵入防止）をするという古くからの風習でした。節分そのものが衰退する中、牛久でも殆ど見かけなくなりました。（KS）

みなさんありがとうございます！

二月十二日(祝)牛久市社会福祉大会のゆめまちなつとのバザーブースに参加し、五十三ケの利用で¥2,100の里山の会への協賛金を頂きました。雑木林応援隊よりの「炭」好評でした。
二月十六日 森カウンター月集計結果：三十九ケの利用、協賛金額 ¥8,994。



こんな記事

百年後の日本は！

世紀末には平均気温が9.4度も上昇？
ミカンの生産地は北関東、三陸海岸
東京の年間真夏日、113日
リンゴの産地が北海道へ
日本全国の砂浜の80%が消失
ブナは90%が消える(白神産地世界遺産
返上?)

返上?)

桜の開花期が一週間から十日早まる
米の生産は北海道に

本州南部では従来の野菜が作れず外来種に
四季がなくなるかも

積雪量が減り、スキー場は閉鎖の危機

DIME 三月六日号 「データウォッチング」より

3月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
				1 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	2	3 巨木古木リサーチ(受) 資料展10:00-16:00 中央生涯学習センター
4 巨木古木リサーチ(受) 資料展10:00-16:00 中央生涯学習センター	5 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	6	7	8 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	9 雑木林畑隊 13:00観察舎畑	10 里山観察隊 8:30市役所 (会報等原稿〆切)
11 雑木林応援隊 9:00ムジナ	12 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	13	14 雑木林畑隊 13:00畑	15 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	16	17 ありんこクラブ 14:00NC
18 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC 広報11:00NC	19 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	20 (休園日) 巨木古木リサーチ(受) 市連絡会 9:30市会議室	21 (春分の日)	22 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	23 雑木林畑隊 13:00観察舎畑	24 巨木古木リサーチ(受) 救急処置トレーニング 9:30NC
25 雑木林応援隊 9:00炭小屋 (次年度計画、雨天時はNC)	26 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	27	28 雑木林畑隊 13:00畑 会報発送 13:00NC	29 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	30	31 じゃがいもP 9:30畑

森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 畑:観察の森駐車場奥の畑,
コジュケイ:観察の森内コジュケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里),
市:牛久市役所, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (休園日):観察の森休園日

編集後記

みなさんは、三月とい
うと何を連想されます
か？
ひなまつり、梅の花、弥
生さん・・・???

「あ
の日逢ったあの人は、今
はどうしているのだろ
う？」と思いを振り返
る時期が、私はいつも三
月なのです。『逢うは別れ
の初め、別れは再会の初
め』と言います。つい先
日、思わぬところで中学
時代の同級生に会いまし
た。彼も元氣そうで、今
では二児の父親だそうで
す。これからも、出会い・
別れ・再会を繰り返して
いくと思いますが、いつ
か再会した時に、『私はこ
れだけ成長しました！』
と胸を張って言える自分
になります。 (記 安村和真)

次号四月号の印刷発行
は三月二十八日午後一時
からネイチャーセンター
で行います。お手伝い
いただける方は一時まで
お越しください。よろし
くお願いいたします。